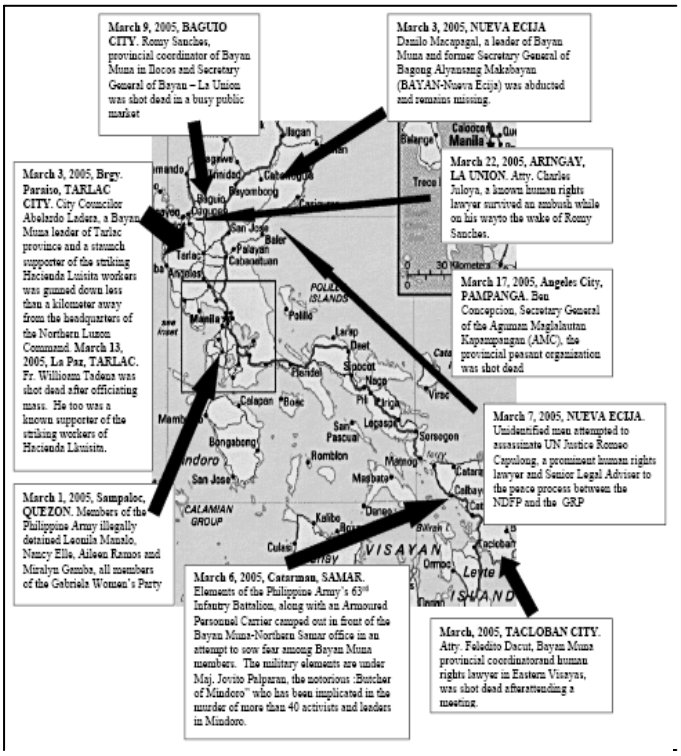
フィリピン人権活動家殺害を今すぐ止めさせよう！

フィリピンでは、このところ合法的な市民団体や革新政党、人権団体などへの弾圧が強まっています。今年２００５年に入ってわずか３ヶ月足らずの間に、バヤン・ムナ党、アナクパウィス党、ＫＭＰ、カラパタンなど政党や市民団体のリーダーやメンバー、支援者が３２名も虐殺されているのです。アロヨ政権に批判的な人びとに対する、フィリピン国軍および警察による「恐怖統治」は終わる気配がありません。実際にどのような弾圧が行われているのでしょうか。



２００１年から２００４年にかけてのアロヨ政権下で、記録されているだけでも３５６０件の人権侵害が起きています。そのうち４８件では、バヤン・ムナ党、アナクパウィス党、ガブリエラ女性党のメンバーが殺害されています。これらの政党は皆革新党であり、２００４年５月の選挙で下院に議席を獲得していました。これらはまた、アロヨ政権による民衆の利益に反する政策に対して批判的な政党ばかりです。

２００４年の１年間だけをとってみても、全国で軍警察による人権侵害は５９５件におよび、被害を受けた人は１０２５５人（1月に８５５人）にものぼります。なかでも、１１月１６日に起きたルイシータ農園での大虐殺（農園労働者５０００人がストをしているところに軍警察が発泡、７人が死亡、１１４人が重軽傷、１１０人が違法に逮捕され、３９人がおそらく誘拐され今も行方不明）は忘れることのできない事件です。

２００５年１月から３月までだけで、３２人が殺害されています。武装グループ（恐らく軍関係者）に誘拐された人は、未だに行方不明です。

アベル・ラデラ／バヤン・ムナ党、タルラック市議会議員。（2005 年 3 月 3 日）
ウィリアム・タデナ／イグレシア・フィリピナ・インデペンディエンテ（フィリピン独立教会）（2005 年 3 月 13 日）
ヴィクター・コンセプシオン／中央ルソン農民連合事務局長（2005 年 3 月 17 日）
ロメオ・サンチェス／ラウニオン州バヤン事務局長（2005 年 3 月 14 日）
フェリディト・ダカット／バヤン・ムナ党東ビサヤ地区代表（2005 年 3 月 14 日）
アーネスト・バング／フィリピン農民運動情報担当員（2005 年 3 月 10 日）
エドウィン・バルガメント／全国砂糖労働者連合（ＮＦＳＷ）(2005 年 4 月 15 日)

誘拐や行方不明者の数も急増しています。２００４年だけで、７８件の誘拐・行方不明が起きています。3月3日には、バヤン・ムナ党の地域コーディネータであるダニロ・マカパガルが武装した４人の男たちに誘拐され、未だに行方がわかっていません。また、3月1日には、ガブリエラの女性リーダー４人が軍による誘拐をあやうく免れました。そのうち３人は、ケソン州で、米国との共同軍事演習に対して反対運動を行っていた人たちです。また、8月１７日には、民衆組織バヤンのマニラ支部メンバー・３人が、マニラ市サンパロックで重装備の男たちによって

白昼、教会に向かう大勢の人たちの目前で誘拐されました。警察の調べで、フィリピン国軍諜報機関（ISAFP）がこの誘拐事件と関わっていることが明らかにされましたが、同機関は３人の身柄を拘束していることを認めていません。

アロヨ政権に批判的とされる著名人やジャーナリストも例外ではありません。２００５年３月７日には、正体不明の武装グループが、国連の旧ユーゴスラヴィア国際刑事裁判所の判事であり、優れた人権弁護士であるロメオ・カプロンを暗殺しようとしました。それに先立って、カプロン判事は、フィリピン国軍が作成した共産主義支援者リストに名前を載せられていました。アロヨ政権の４年間で、３０人のジャーナリストがすでに殺害されていますが、コラソン・アキノ、フィデル・ラモス、ジョセフ・エストラーダの３政権約１５年間で殺されたジャーナリストの数３６人とくらべるといかに多いかがわかります。

殺害された人の数は増え続けていますが、明らかに、犠牲となっているのはこれまでフィリピンの人びとの利益のためにたたかってきた進歩的な市民団体、政党や人権団体などのメンバ･です。アロヨ政権は、合法的な異議申し立ての声を封じ、人権や市民の自由をまったく顧みない、マルコス式のやり方を選んだのです。

殺害を今すぐ止めさせよう！

私たちは、アロヨ政権に対してフィリピン国内における人権と市民の自由を尊重し、殺害の下手人を裁くことを要求します。そして、平和と自由を愛するすべてのフィリピン人と日本人に、この運動に参加してほしいと思います。また、日本政府に対しても、このようなアロヨ政権に援助を出さないよう、またフィリピンの人びとの正義と自由、民主主義を尊重するよう呼び掛けたいと思います。

悪化する人権状況

９１１事件以降、フィリピン政府は「対テロキャンペーン」の名のもとに、国内のムスリム系住民に対して不当な逮捕・拘禁を繰り返しています。また教会関係者への弾圧も増え続けており、人権状況は全般的に悪化しています。とくにムスリムの多い南部のミンダナオでは軍による住民への人権侵害が頻発しており、２００５年２月１日には、スル地方ホロ島マニンボンで、明け方踏み込んできた軍によって民間人の一家４人が殺害されるという事件が起きています。

悪化する人権状況

911 事件以降、フィリピン政府は「対テロキャンペーン」の名のもとに、国内のムスリム系住民に対して不当な逮捕・拘禁を繰り返しています。また教会関係者への弾圧も増え続けており、人権状況は全般的に悪化しています。とくにムスリムの多い南部のミンダナオでは軍による住民への人権侵害が頻発しており、２００５年２月１日には、スル地方ホロ島マニンボンで、明け方踏み込んできた軍によって民間人の一家４人が殺害されるという事件が起きています。

フィリピン人権活動家殺害を今すぐ止めよう！
日本・フィリピンネットワーク

International Affairs, National Christian Center of Japan (NCCJ)
NCCJ Bldg., 2-3-18 Nishiwaseda, Tokyo Japan

２００５年５月２２日
東京都千代田区霞ヶ関２－２－１
日本外務省
外務大臣　町村信孝様

町村信孝様

私たちは、フィリピンで相次いでいる進歩的政党党員や民衆組織のメンバーおよびその支援者たちに対する大量虐殺、人権侵害に対して、深く憂慮しています。フィリピン国内はもとより、国際的なメディアにおいても、これらの殺人事件は、フィリピン国軍および警察によって行われたものとして広く報道されてきました。しかしそれにもかかわらず、またフィリピン国内や海外の諸団体からの多くの署名や抗議にもかかわらず、アロヨ政権はこの件について沈黙し、殺害を止める手立てを講じておらず、殺害に関与した者の裁判も行われておりません。

２００４年１１月から０５年３月にかけて、すでに４７人が殺害されています。犠牲者の多くは、バヤン・ムナ党あるいは労働者政党であるアナクパウィスの党員でした。両党は進歩的な政党であり、２００４年５月の選挙では下院で複数の議席を獲得しています。そのほかに犠牲となった人びとは、いずれもアロヨ政権の政策に批判的な団体に所属していました。

私たちはアロヨ政権に対して、フィリピンにおいて人権を尊重し、殺人を今すぐやめるよう要求します。

このような状況およびフィリピンのような発展途上国に開発援助を供与するという日本政府の方針にかんがみ、私たちは日本政府に対し、アロヨ政権に対して援助供与を停止するよう要請します。また、フィリピン政府と国軍、警察に対し、犠牲者の遺族に対する補償と殺害に関与した者の裁判を行うよう、日本政府が私たちとともにフィリピン政府に対し強く求めることを要請致します。

NO JUSTICE, NO AID!

	名前	住所	所属
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			

Please address inquiries through the Secretariat:

National Secretariat
C/o International Affairs, National Christian Council of Japan (NCCJ)
NCCJ Bldg., 2-3-18, Nishiwaseda, Tokyo, Japan
Telephone No.: 09092037195 (Agalyn Salah Nagase) or 09057638320 (Cesar Santoyo)

Nagoya Secretariat
C/o Filipino Migrants Center (FMC)
1F Copo Ogawa, 2-3-29 Higashi Sakura, Higashi-ku, Nagoya-shi, aichi 461-0005
Telefax: (052) 935-6709 or 09089558718 (Virgie Ishihara)